

経営者インタビュー EXECUTIVE INTERVIEW



濱中 本日は自費専門の歯科技工所、合同会社アーデントラボさんにお邪魔しています。オシャレで、ゆとりある空間ですね。まず、池本代表が歯科技工士を目指したきっかけを教えてください。

池本 父親が私の手先の器用さに気付いていたようで、「歯科技工士」という仕事が向いているのではないかと提案してきたのがきっかけです。そこから通っていた歯科医院の歯科医師がたまたま専門学校の非常勤講師をされていることを知り、専門学校へ見学に行かせてもらったんですよ。そこでは石膏を流すほか、単純な彫刻をする作業を体験しました。これなら自分にもできそうだと感じ、歯科技工の道に飛び込んだ次第です。



濱中 簡単そうに言われているものの、とても難しい作業ですよね。潜在的なセンスもあったのでしょうか、勉強もかなりされたのでは？

インタビューー 濱中治（野球解説者）

池本 そうですね。日常生活とは少し離れた分野でしたし、ただつくるだけで良い、というものではなく、ましてや「見る」と「やる」とでは別物でした。幸い、専門学校では気の合う仲間や先輩方がいてくれたことで楽しく学べましたし、たくさんの技術や知識を吸収して卒業することができました。しかし、就職して臨床の現場となると学んできたことが思うように通用せず、打ちのめされましたね。

濱中 高校野球からプロ野球へ進んだときの私と似ているかもしれないなあ。同じ作業なのに、「プロの現場だとこんなにも雲泥の差があるのか」といった感じでしょう？

池本 おっしゃる通りです。就職してからの5年程度はろくに睡眠時間も取れず、夜中まで作業するのは当たり前でした。職人の世界なので手取り足取りではなく、自分で見て、覚え、考え、そして実行する。その繰り返しで必死でしたね。「早く周りに追いつきたい」の反骨精神で過ごしていましたよ。

濱中 よくわかりますよ。そのハングリーさが、池本代表の技術と知識の土台となったわけだ。



池本 濱中さんに共感していただけて嬉しいです。私のラボでは、髪の毛の約3分の1の細さ、20ミクロンの世界で仕事をしています。そこを追求することで、ようやく口腔内で違和感がないほどの精度となり、生体親和に優れた補綴物になるんです。そのためにも歯科医師、歯科衛生士、歯科助手と日頃から連携し、患者様の情報や、それぞれの立場から知識と技術を共有する「チーム医療」が必要と考えます。また、仕上がった技工物もできるだけ口腔内で削らず適合させることを目指しています。その結果、チェアタイム（診療時間）の短縮にもつながるだけでなく、患者様へ負担を軽減し、満足度も上がって、みんなが幸せな気持ちになりませんか？



ビフォーアフターの様子

濱中 その通りですね。ただ、その好循環のサイクルは、「何とかしてあげたい！」「治してあげたい！」という真心なしには成立しないんじゃないかな。患者さんへのとてつもない愛情を感じますよ。

池本 ありがとうございます。まさにそうで、私たちの仕事は製造業でありながらも医療に通じています。ですので、関わるすべての方に愛情を持ち、手作業の労力を惜しまず取り組んでいます。最近では、咬合のズレが身体に大きな影響を与えることも

わかっており、学会やセミナーでも情報を発信しているところなんです。

濱中 スポーツ界でもパフォーマンス発揮に、かみ合わせは重要とされています。私の現役時代はそこまで共通認識がなかったのですが、奥歯がボロボロですよ（笑）。

池本 食いしばって頑張っただけの証ですね。濱中さんの歯の動きをお見受けすると・・・左側でかむことが多いようですね。左肩が凝ったり、腰の右側が痛くなったりすることがあると思いますがいかがですか？

濱中 その通りです！ そんなことまでわかるんですか！？ 特に左の肩凝りがひどくて困っています。こういった慢性的な症状も、噛み合わせが影響するのでしょうか？

池本 そうですね。うまく噛めなかったり、噛み合わせが悪くなったりすると脳が活性化せず、神経への刺激は乏しくなり、身体のバランスも崩れていきます。噛むことで反射神経のような運動能力、記憶力、判断力、集中力の向上だけでなく、認知症との因果関係もわかっています。なかなかそこまで追求している歯科医師や歯科技工士も少ないかもしれませんが。ある女性の患者様は、全顎的な歯科疾患で拒食症、鬱状態にあり、10年以上悩んでおられました。しかし、患者様を中心に「チーム医療」で治療を続けるうちに改善しましてね。健康と笑顔を取り戻され、新たな人生を踏み出される瞬間に立ち会えた時は何物にも代えがたい気持ちで、歯科技工士冥利に尽きました。



濱中 池本代表が、その方の人生をポジティブに変えたんですね。お話をうかがって、歯科技工士さんのお仕事の尊さを実感しましたよ。緻密な世界の作業から、大きな結果をもたらすアーデントラボさん。これからも歯科技工を通して、多くの人を幸せへと導いてください！

「仕事を楽しむ」とは・・・

患者様といかに寄り添えるか、ということです。これまでの生活や、周りの環境、ご家族のことなどを考えると「何とか歯科技工士として役に立てないか？」という気持ちが芽生えてきます。治療をすることで笑顔を取り戻された患者様の表情を見ると、我々も勇気や希望をいただけるんですよ。

(池本政直)

:: 事業所情報 ::

合同会社アーデントラボ

〒567-0868 大阪府茨木市沢良直西1-2-5 ニューヴェレール南茨木Ⅱ 203

ホームページ

<https://www.ardentlab.jp/>